

「ICTを利用した産業廃棄物収集運搬業務」研究会

1 概略

産業廃棄物の処分業者では、排出事業者から処理の依頼があったとき、依頼を受けた品目に一致する収集運搬業者の手配が困難な場合があり、車両不足、ドライバー不足の他、収集運搬業者と処理業者がうまく結びついていないことが課題点である。

産業廃棄物の排出業者の処理要求、収集運搬業者の合理的運搬要求、および処分業者の求車要求をICT、電子的ネットワークを介して結び付け、最短で最適なネットワークを介して結び付け、最適な収集運搬ルートを提案する効率的な収集運搬者仲介サービスを通して、環境負荷の低減に寄与しようとするものである。

(検討課題)

収集運搬のみ許可を取得している業者のなかで、実際に片道運搬がどの程度発生しているか、運搬業務を探すのにどの程度の時間を要しているか、他事業との業務状況等について、詳細な実態調査を行い、小規模運搬業者のICTを利用したシステムの需要、排出事業者及び処理業者の需要がどの程度あるか等について調査を行い、マッチングシステム、事業性の調査研究を行う。

2 研究会メンバー

- ・研究会代表者 名古屋産業科学研究所 上席研究員 藤沢寿郎
- ・指導者 中部大学教授 元名古屋大学教授 佐野 充
- ・ダイセキ環境ソリューション(株) 常務山本浩也他1名
- ・グリーンアローズ中部(株) 松竹冬樹・トランコム(株)・・・マッチング業務 1~2名

3 今後の方向づけ

・今回の調査を行った結果、本システムに乗っかって、仕事をこなせるのは、難しいが

しばらくの期間粘らないと、事業化が難しいが、社会ニーズはあり、先行して事業を進める価値はあるので、進め方を考えていきたい。

・今後土壌汚染は少なくなる。産廃の収集運搬業務は増える。今回検討しているビジネス

モデルを通して情報収集のシステム構築が必要。

・新しい収集運搬業務を立ち上げる中で、情報収集を進め、本業に生かしたい。従ってシステム化の意義はある。

収集業務の総元締めになる可能性がある。システムを進めることが、自社のメリット。

・トランコム(株)とダイセキ環境ソリューション(株)が各々新しい事業として進めていく。

・今回のシステムは、いずれにしても静脈物流の革新につながる。

・足元を固めて、実績の積み重ねが重要で、継続することが必要である。

4 結論

産業廃棄物の情報、収集のシステムを作ることが、資源の利活用促進に効果があり、循環

社会の構築、持続可能な社会に貢献出来る。